

Branding of 霞ヶ浦

日本で二番目に大きな湖ながら知名度の低い、茨城県の霞ヶ浦を、若い層をターゲットにブランド化する。湖畔にある温泉施設をコンバージョンし、霞ヶ浦一周するサイクリングロードの中継宿泊施設として再生させる。



21910467 依田汐音

霞ヶ浦について

日本で二番目に大きな湖、霞ヶ浦。夏には観光帆引き船が運航され、冬には多くの渡り鳥が飛来するなど、豊かな湖である。しかしながら、知名度は低く、周辺に観光地もないため、観光客が来ず、街の高齢化も進んでしまっている。



そこで、生まれ育った霞ヶ浦の魅力が伝えられる場所をつくり、若年層に向けたブランド化を図ることで、地域の活性化に繋がりたいと考えた。

つくば霞ヶ浦りんりんロード 計画敷地 あそう温泉白帆の湯 茨城県行方市麻生

霞ヶ浦を周遊する湾岸道路全長約130kmのサイクリングコース。これまで地元の方が主に利用していたが、令和元年11月にナショナルサイクリングルートに指定され、都心から約1時間で行くことができることから、近年は県外からの利用者も増えてきている。さらに、拠点の土浦市では、台湾に向けたインバウンドとしてサイクリングを織り込んだショートドラマを作成し、2022年には土浦市の検案件数が前年比で約4倍になるなど、国外からも注目を集めている。



霞ヶ浦湖畔に位置するあそう温泉白帆の湯は、霞ヶ浦を一望できる温泉コミュニティ施設である。主な利用者は周辺住人で、温泉は賑わっているものの、若者や観光客の利用者は少ない。

敷地選定理由

- ①霞ヶ浦を一望できる立地 → その立地を活かしきれていない施設。
- ②つくば霞ヶ浦りんりんロードの中間地点 → 中継宿泊施設・休憩所として最適。

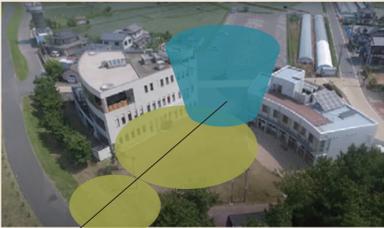


ダイアグラム

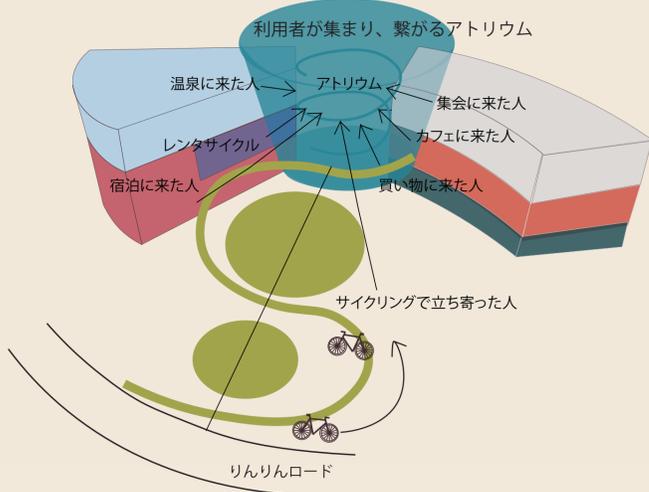
現状



二つの建物を繋げる



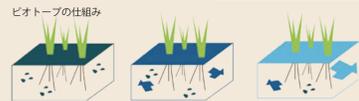
りんりんロードと建物を繋げる



土浦駅

霞ヶ浦の水質改善

昭和30年代は比較的きれいな水で、泳ぐことができた霞ヶ浦ですが、昭和40年代後半から生活様式の多様化などに伴い、アオコが大量発生し、水質が汚濁してしまいった。そこで、霞ヶ浦の水質改善のため、ビオトープを設置し、泳げる霞ヶ浦を取り戻したいと考える。

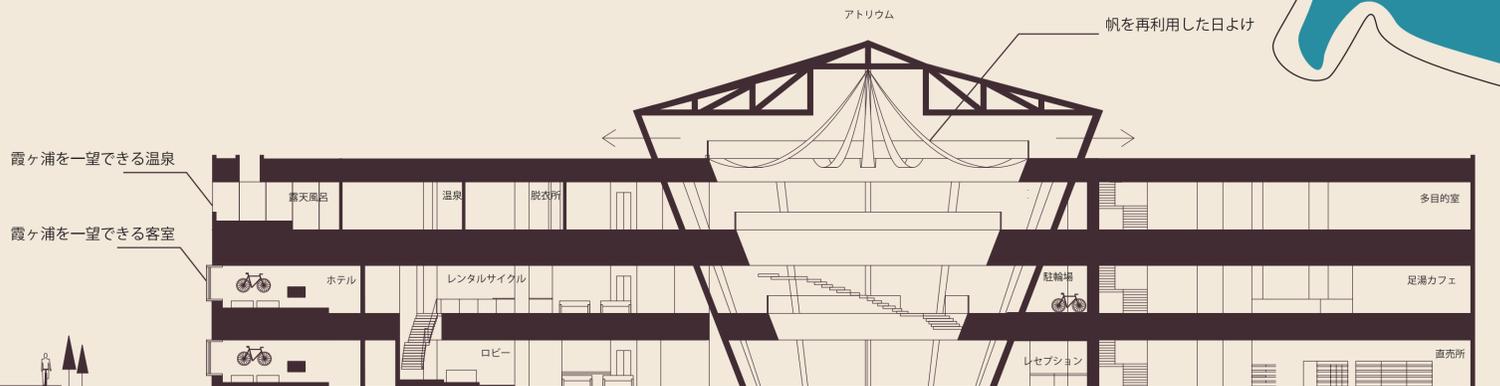


帆引き船の帆の再利用

霞ヶ浦では、帆を使い風の力によって船を横に流し漁をする帆引き船が、明治から昭和にかけて利用されてきた。現在はその帆引き船を受け継ぎ、夏から秋にかけての風物詩として観光帆引き船が運航されている。帆引き船の帆は一反の布を16枚から20枚繋げて一つの帆としており、3年に1度、交換し、廃棄されている。しかし、中には状態が良い布もあるため、再利用し、日よけ、庇として活用したいと考える。



断面図



断面図 1/200
0 1000 10000